

「私たちが愛された神」ヨハネ3章16-21節

みなさん、クリスマスおめでとうございます。今朝はこのようなコロナ禍が続く中ではございますが、こうして皆さんと一緒にクリスマスの礼拝をささげられますことを本当に心から嬉しく思っています。今朝は開かれた聖書の御言葉を通して、このクリスマスに示された神の愛について一緒に学んでみたいと思います。

ヨハネは今日の16節の御言葉を通して「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。」と聖書の神は私たち人類を愛された愛の神であると語っています。また、ルカはキリストの誕生は「世界中の人々にとって大きな喜びである。」とも語っております。ところが私たちはこのキリストの誕生をどれだけ喜びとして受けとめているだろうか、そのキリストの誕生に神の愛をどれだけ覚えているだろうかと思わされるのですが皆さんはいかがですか。神さまは大切なひとり子を与えるほどに私たちを、この世を愛されたのだと聞いても、その神の愛を中々素直に受けとめることのできないもやもやがあるのです。それは私たちの住んでいるこの世界には今もなお様々な苦しみや悲しみ、悩みが満ち溢れているからです。戦争や犯罪や自然災害、病気で苦しんでいる人々がたくさんいるからです。そしてこのような様々な人生の試練や苦しみ、悲しみに直面する時に、私たちは「もしも愛の神が本当におられるのなら、何故このような苦しみをそのまま放置されているのですか。何故早く解決して下さらないのですか。」と考えてしまうからです。特に、この2年間、私たち人類は100年に一度あるかないかと言われる新型コロナウイルスによるパンデミックの試練を経験させられています。そしてこの試練によって愛する人を失った人もいれば、仕事を失った者、倒産に追いやられ、経済的に困窮している者もたくさんいるからです。またこの新型コロナウイルスの防御策として様々な感染対策が求められており、また自粛生活によって家族や親戚、友人との交わり、教会の交わりが分断され、大きなストレスを感じているのではないのでしょうか。たった一つのウィルス菌によって世界中の国々の、世界中の人々が翻弄されているのです。しかもこのコロナのウィルス菌が医療の世界だけでなく経済や仕事にも、政治にもそして私たちの信仰生活にもこんなにも大きな影響を与えるなんて誰が想像したことでしょうか。それでは神さまはこのような試練を通して、私たち人類に対してどのようなメッセージを与えようとしているのでしょうか。世界中の人々はこの大きな試練に直面して、いかにその試練を解決するか、乗り越えるかということに心を傾けてきました。それはこの新型コロナウイルスが私たちに死をもたらす恐ろしいものだからです。そのために多くの人々は自分を感染から守るために消毒やマスク着用やソーシャルディスタンスなどを心掛けてきました。また医療関係者や製薬会社はこの感染症の解決のためにワクチンや治療薬の開発に日夜励んでいます。本当にありがたいことだと思います。しかしそれではワクチンや治療薬が開発され、新型コロナウイルスの問題が解決されれば私たち人類に幸せが訪れるのでしょうか。神さまに対する不平不満は解消されるのでしょうか。私は決してなくなることはないと思います。何故なら私たち人間に死をもたらすのはコロナウィルスだけではないからです。今日2人に1人は癌になる時代であります。その他、脳梗塞や心筋梗塞、不治の病はこの世にたくさんあります。またこのような病気や疫病以外にも戦争や犯罪、交通事故、いじめなどで死ぬ者は後を絶ちません。このように私たち人類に死の悲しみをもたらす要因はコロナウィルス以外にもたくさんあるのです。ですから本当は世界の人類全体の幸せを考えるならば、私たちは目先の疫病の解決だけでなく、人間にとって避けることのできないこの死の問題について、その根本的解決こそ真剣に求めるべきなのではないのでしょうか。逆に目先の新型コロナウイルスの対策や解決方法には一生懸命に取り組んでいる私たちが、何故も

っと大事な人間の死の問題に、その死をもたらしている罪の問題に真剣に目を向けようとし
ないのでしょうか。しかし神さまはこの人間が抱える罪の深刻さを誰よりもよくご存じであ
られました。だからこそこの人間にとって最も根源的な罪の問題を解決するために今から
2000年前にイエス・キリストという神のひとり子を世に遣わしたのです。それがあのクリ
スマスであったのです。それは私たち人間を心から愛しておられたからであると言うのです。
それでは次に神さまはイエス・キリストを通してどのような救いを与えてくれたのか三つの
点から学んでみたいと思います。

まず第一に、キリストの救いは私たち人類を滅びから救うためであると語ります。17節に
は「神が御子を遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるため
であると記されています。

神のさばきなんて本当にあるのかと思われる方がいるかもしれませんが、聖書のヘブル人
への手紙9章27節には「人間には一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まってい
る。」とはっきりと記されています。罪のさばきは確かにあるのです。ヨハネは続いて19節
で、「そのさばきとは、光が世に来ているのに、人々が光よりも闇を愛したことである。」と
語ります。それは神の救いを受け入れない者は自分の罪がわからず、その罪の支配の中にあ
るからです。そして闇を愛する人はそのことによって悪いことを行い、罪の中を歩むことにな
り、様々な罪の刈り取りをしなければならなくなるからであります。しかしキリストが十字
架で身代りに死ぬことにより、私たちが支払うべき罪の代価を代わりに支払って下さった
のです。キリストはこのように私たちの罪を贖い、私たちがもはや滅びることのないように
罪から救って下さったのです。

次にキリストによってもたらされる第二番目の救いは、キリストを信じる者が永遠のいの
ちを持つということです。

この永遠のいのちとは私たちがただ死なないで永遠に生き続けるということではなく、御
子であるキリストを信じた時に同時に与えられるものであることがわかります。つまり、こ
の永遠のいのちとは私たちの救いの状態、神さまとの関係を表わしたもののなのです。それゆ
え、ヨハネはヨハネの手紙第Iの1章2-3節で、この永遠のいのちとはイエス・キリストの
ことであり、御父また御子との交わりであると語っています。つまり、今まで罪のゆえに持
つことができなかつた三位一体の神との交わりがイエス・キリストを信じることにより回復
され、神との交わりがその時から始まるということなのです。この神との永遠の交わりを永
遠のいのちと呼ぶのです。聖書の神さまはこのように私たちを愛して下さり、神の子どもと
して受け入れて下さり、永遠のいのちを与え、私たちと共に生きることを誰よりも願って
いる神さまなのです。

さて最後にイエス・キリストを信じることによってもたらされる救いは私たちが光を愛す
る人生を歩むためです。20-21節をご覧ください。

私たちが罪から救われたのはただ神のさばき、罪の滅びから救われるだけではありません。
永遠の命が与えられ、神の子どもとされて良かった良かったと喜ぶだけではありません。私
たちが罪から救われたのは私たちがもはや闇を愛する人生ではなく光の子どもとして光を愛
する人生を歩むようになるためであります。何故ならキリストは私たちの光であるからです。
この愛が失われ、罪に墮落した社会、不道徳が蔓延し、聖さが失われているこの社会の中
で私たちは光の子として、光であるキリストを愛し、キリストの愛に生きる人生を歩むのです。
これはキリスト者として何とすばらしい祝福に満ちた幸いな人生でしょうか。キリストは私
たちにそのような光に歩む人生を与えるためにこの世に来られたのです。このクリスマス、
私たちも神さまからの愛のプレゼントであるイエス・キリストを心の中に受け入れ、神の子ど
もとして光なるキリストを愛しキリストを証しする人生を歩ませて頂こうではありませんか。